

おぼろげな平塚らいてうの会ニュース

第26回通常総会ひらけ

戦後80年 平塚らいてうの会が平和を築き進もう

第26回通常総会は、東京ウイメンズプラザで開催。事業報告、事業計画、新役員選出等予定の議事を終了しました。

らいてうの家から

らいてうの家のオープン準備中、昨年設置した「らいてうのこころざしを生かし、ガザ・ウクライナ・世界に平和を」の看板の冬の間に薄れた文字を濃く塗りなおしました―無念の思いとともに。現地の惨状は過酷さを増し世界平和の道筋は不透明な現在、日本の状況も、平和憲法に反するアメリカへの従属のもとでの戦争準備が国会での十分な議論がなされないまま強行され続けていま



報告する金輪事務局長＝5月24日

予期しなかった私たちの主食である米の値上がりは、1918年に起こった米騒動―シベリア出兵と関連した―を思い起こさせました。軍事力による他国への侵略を二度と再び起こさない決意の結晶

が日本国憲法でした。それをよりどころとしてらいてうは、戦後を生き抜きました。

今年のらいてうの家の企画展示は、「戦後80年―平和・平等へ向かって」として、今までに作成したパネルに加えて「平和・核廃絶とらいてう」、「日本の女性の権利は国際水準?」の2枚をつけました。被団協のノーベル平和賞受賞、国連女性差別撤廃条約実施に関する改善勧告をうけて、らいてうの活動からの学びを深め、私たちの現在を見つめなおす一助になればと願っています。

2026年「らいてう生誕140年、らいてうの会25周年、らいてうの家20周年」に向けて

総会では、周年行事についての報告がされ、次の10年に向けての意見が出されました。らいてうの家建設時のみんなの願い、パワーに学び、それからの20年を上田と東京の会員で運営し続けたということについてもいろいろな側面から振り返り、そこに自信をもって、募金を呼び掛け、会の担い手を広げていく。また、学校関係に働きかけ、らいてうの家を生徒の学びの場として開放し

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

ていったらなどの意見が出されました。会の役員は、昨年1人、今年2人の新理事を迎えることができ、その新しい力が周年行事でも発揮されようとしています。

らいてうの家の前にキャンプ場?

ソーラーパネル設置に反対し、阻止した土地が、今度はキャンプ場になるかもしれないという情報が入ってきました。元のあずまや高原ホテルの従業員宿舍の改装工事が進んでいるのは確かでしたが、詳しいことはわかっていません。早急に上田市などに情報を確認し、対策を講じなければなりません。この別荘分譲地は、営利を目的とするものは認められていませんでした。「平和、協同、自然のひろば」として、貴重ならいてう遺産などを収蔵している文化施設であるらいてうの家の環境を守ることは、絶対に譲ることができない要点了。

らいてうの家の存続にかかわる問題として取り組まなければなりません。(代表理事 三留弥生)

今年度の役員

- 代表理事・沓掛美知子、堀江ゆり、三留弥生
- 事務局長・金輪きみ子 事務局次長・北澤有希子
- 理事・青木俊子、植草充代、金子恵(新)、木村見江、久野泉、倉橋純子、櫻井幸子、高橋小百合(新)、竹花みい子、藤川延子、宮下昌子、山田繁子、若尾伸子 幹事・佐久間由美子、牧祐子

らいてう忌・特別講座 小林郁とらいてうの 友情

2025/5/24



講演する三留代表理事

5月24日(土)はらいてうの命日。特別講座は「小林郁とらいてうの友情」というテーマで、新資料などにもとづいて、代表理事・三留弥生さんの講演がおこなわれました。

小林郁(1885~1964)とらいてうは、お茶の水高等女学校で出会い、13歳から18歳までの多感な5年間を一緒に過ごしました。付属小学校からの無試験組に対して、らいてうら公立からの試験組はその雰囲気になじめず、当時の女学校の良妻賢母教育に異を唱えた「海賊組」という5人衆をつくり、「結婚しないで何かやっていこう」という気持ちに強く燃えて：つくられた女らしさに反抗してわざと身なりを構わず「団結してました。その中の一人が小林郁(旧姓 梅沢)でした。梅沢郁は群馬県の出身。生い立ちにおいては苦勞を体験しながらも、強く明るく前向きに生き、現実的実的な能力も豊かな、包容力のある存在で、らいてうにとって一種お姉さんの存在でもあったのではないかと感じさせられます。女学校卒業後、ふたりはそれぞれ別の道を歩き

はじめます。郁はそのまま女子高等師範学校に進学し、卒業後は長野県松本高等女学校の教師として赴任し経済的自立をはたしました。海軍士官との結婚後は夫の勤務地である横須賀に住み、横須賀高等女学校に勤務します。一女を出産後も働きつづけ、養母の介護で退職するまでの26年間教職に従事しました。

かたやらいてうは、日本女子大に進学し、卒業した後は、速記術を習得したものの、女子英学塾、二松学舎に学びながら禅修行をする中、1911年『青鞜』発刊。その後は新婦人協会設立や消費組合活動などに取り組み活動していきます。

*

郁とらいてうの死後、郁の娘の孝子が小林登美枝さんに送った手紙の中では、親しい間柄であったからこそ、郁ならではのらいてうへのまなざしが伝わってきます。

実際、らいてうは「塩原事件」の際には、東京を離れ、郁を頼って信州松本に滞在し傷ついた心を癒します。また、『青鞜』時代にらいてうが四面楚歌の中で長女を出産した時には、激励の便りとともに、当時の10円という大金を郁はらいてうに送っています。二人は頻りに会うことは叶いませんでしたが、その後も戦中戦後を経て、生涯にわたって互いにかけてがえのない存在であり続けたのでした。

戦争中、らいてうは茨城県戸田井に疎開し、長男敦史の応召や実家の空襲での消失、慣れない疎開生活を体験します。郁は軍港横須賀に住まいながら、いつ米軍機の襲撃があるかもと怯え、戦局の悪化の中で、いつ永別の日が来るかもしれない

という思いでらいてうに長い手紙をしたためています。そして郁の娘の孝子の夫も戦時下で亡くなっています。そのような時代状況の中、まさに二人は生き方こそ異なるものの、互いに「戦争の世紀」を自立して生き抜いた女性でもあったのです。

*

「さて、わたしたちは今、いったいどのような世紀を生きているのでしょうか？」との問いが講師三留さんからだされました。自立した二人の女性の生きざまを通して、私たちは今の世の中をどうとらえどう生き抜くべきなのか、どのようにに彼女の思いや生きざまを受けついでいくのか、これは私たち一人ひとりに問いかけてられているのではないのでしょうか。参加者からは、「当時の時代背景への視点も入れて語られた内容で、当時の女性の置かれた状況についての理解が深まった」という感想とともに、そのことに対する質問や発言が活発に出されました。(藤川延子)

らいてうの音楽家 オープンイベント

4月26日(土)
参加35名

メインイベントには、上田市で活躍されているヴァイオリン奏者の大井俊恵さんと東御市のピアノ奏者の柳澤和恵さんによるミニコンサートがあり、解説をしながら、全13曲を披露してくださいました。懐かしい名曲や、らいてうの時代に活躍された作曲家による曲から、葉加瀬太郎さんの「情熱大陸」まで、会場のみなさん



戦後80年

『平塚らいてうと現代』を書いて

米田佐代子

らいてう研究に新しい視点

戦後80年の今年、『平塚らいてうと現代―女性・戦争・平和を考える』（吉川弘文館）という本を出版しました。昨年9月90歳になり、体力気力の急速な衰えを自覚しつつ編集者をはじめ多くの方がたに励まされてまとめたものです。思いがけずいくつかのメディアで「らいてう研究に新しい視点」と紹介され、ご批判を含めて話題にさせていただいたことを感謝しています。

本書は、収録の論文執筆当時からいてうの会で保管中だった未公開の平塚らいてう資料（日記や書簡・手書きのメモ等。現在は公開中）を読み解き、これまでの『自伝』や『著作集』からは見えなかったひとりの女性としてのらいてうが、ときには迷い、孤立し、非難・批判を浴びながら時代と向き合ってきた足どりを追ったもので、中心テーマはらいてうの平和思想です。

生活体験にねざす平和思想

らいてうが戦時中の言説に反省もせず、戦後にわかに平和主義者になったように見るのは間違いです。その平和思想の原点は『青鞥』の時代にはじまり、自分の意思で選択した恋愛・事実婚・出産といった生活体験と第一次世界大戦後の「世界

民思想」との結びつきにあります。その彼女が戦時日本の侵略戦争に反対できなかったつまずきと、日米開戦直後の「早すぎる疎開」、そして戦後の沈黙を経て、「ただ戦争だけが敵」という独自の平和思想にたどり着いて行ったとわたしは考えています。

戦時下の言説について、著作集にも自伝でも取り上げられていない「汪兆銘政権支持」発言を軸に、らいてうの「動揺」とそこから「緊急脱出」した「疎開」の意味、戦後中国との戦争を阻止できなかったことを「愧じ」、日本国憲法九条と個別国家の軍備保有を否定する「世界連邦思想」への共鳴に至る過程などを、新資料から「再発見」したと思っています。

「行きつくところまで行ってみる」思想

わたしは1945年8月15日に10歳で敗戦を迎えました。新制中学最初の1年生として『あたらしい憲法のはなし』を学び、憲法九条を「あたしまえ」とうけとめてきた世代です。今、世界は理不尽な戦争とそれをあおる大国のエゴに満ち、日本は「戦争する国」への道を突き進んでいます。自分はすでに古い、行動できない無力を痛感していますが、若い日のらいてうが後ろを振り向かず、「行きつくところまで行ってみる」と宣言したように、わたしも残された時間を生きたい。じつは「米田佐代子が語る人生とらいてう」という企画もあり、「穏やかな老後」とは程遠い毎日ですが、自分の意思で歩いて行くこうと思っています。ご一読くだされば幸いです。

(元会長)



ミニコンサート

も、演奏に合わせて一緒に口ずさむ場面も見られて、大変なごやかなひと時となりました。最後にアンコールでは、会場のみなさんの「ふるさと」の歌声と共に演奏は締めくくられました。コロナ禍

以降初となるお茶席は、会員の半田千代子さんのご指導のもと、上田市御菓子処千野の美味なる蕎麦饅頭と共に抹茶を受け、幸せなひと時を過ごすことができました。この時偶然にも御親戚同士だった柳澤さんと半田さんが、30年ぶりの再会を果たされて、とても感動いたしました。天国から、らいてうさんが引き合わせてくださったのでしょうか。

一息ついた後には、代表理事の三留弥生さんによる展示案内の解説がなされました。

いろいろな意味で節目となった年の始めに呼応するように、庭先のカタクリに初めて花が咲きました。およそ二十数株ほどが成長して、今年ようやく見事な花を咲かせてくれました。会員の皆様による毎年の庭の手入れの成果が表れたのだと感心いたしました。

らいてうさんの願いに同調する会員の皆様の願いも共に叶っていきますように、このらいてうの家が発信元となって一粒一粒種を蒔くように、世界に広がっていきますように願って、活動を続けたいと思えました。

(金子恵)

シリーズ No.6

らいてうの家が できるまで

5000万円を目標にした募金集めはやりきらなければとみんな燃えていた。個別に募金帳を片手に日頃の人脈をフル回転し大胆に働きかけた。会員どうしの連帯と交流も力となった。らいてうは嫌いだという人とも粘り強く話し合った。真田らいてうの会は学習を重ね真田町全戸に10000円の募金でもと地元の意義を訴えたとのこと。全国集計で30000人を超えた個人、団体から最終

皆で気持ちに合わせて

「らいてうの家」建設

私は2004年3月地元上田らいてうの会に入会し同時にその役員もお引き受けした。当時の「平塚らいてうの会」は「らいてうの家」の建設に向けて既に方針が決まり大きく動いていた。

2004年8月、家の建設予定地視察と設計担当の女性建築士9人と中央設計との会員の「家づくりの話し合いが真田町御屋敷公園で行われた。会場いっぱい集まった地元（上田・真田）

会員からは設計図を前に真剣に多くの要望が出された。設計者は大変だと思ったが出来あがった家は細やかな配慮があり趣きのあるすばらしい家となった。ペレットストーブの寄贈、家に期待を寄せて各方面からのご努力で立派な大黒柱、家具、ステンドグラス等が実現したのは、どれもうれしいことであった。



らいてうの家で学習会を行った。2006年、鹿沼市で「上田市の女性と食生活」をテーマにした講演会を開催した。田中康夫知事（当時）のスピーチはらいてうについて深い理解があり、驚かされた。

羽田孜国会議員は若い頃、成城の喫茶店でらいてうさんとお茶した思い出をどうしても語りたいたい強い希望で出席された。らいてうの幅の広い方々への影響の大きさを痛感させられた。

らいてうの家のオープンを待つて早速「上田市女と男 市民の会」は見学会と学習会を行った。らいてう講座へ参加することでジェンダー平等についての学習の機会が増え、活動していることの確信が深められた。家の当番にかかわり東京の当番さんや来訪者からいながらにして多くのことを学ぶこともできている。女性差別撤廃条約を学び広げるために行われる市民フェスティバルの実行委員（Uネット）にらいてうの会が加わって20年、内容充実に役割を果たしている。らいてうの会はらいてうさんが望んだように市民運動に多くの影響を与えている。

（富松裕子）



故郷中田にいらした田中優子さん。故郷中田にいらした田中優子さん（左）と家の当番をする筆者（右）

お詫びと訂正

前号129号4面「らいてうの家ができるまで」の上段13行目「花岡静江さん」を「花岡静枝さん」に。中段の6行目の後に「2001年5月、ブックレットを使い学習会を始め、これにより「上田らいてうの会」発足の機運が高まりました。」を挿入します。中段11行目「会員が募金帳を持って」を「上田らいてうの会会員が募金帳を持って」に。中段21行目「上田駅前にあった」を「原町にあった」に。以上お詫びして訂正いたします。

【事務局日誌】

- 4月10日 第5回代表理事会（オンライン併用）
- 4月13日～15日 りいてうの家オープン準備
- 4月26日 りいてうの家オープン
- 5月9日 葉草の森りんどう開山式 杏掛代表理事出席
- 5月8日 第6回理事会（オンライン併用）
- 5月15日 2024年度会計監査
- 5月24日 第26回通常総会・第1回理事会
- らいてう忌・特別講座「小林郁とらいてうの友情」講師・三留弥生さん（於東京ウイメンズプラザ）
- 5月30日 資料整理
- 6月8日 森のめぐみ講座①庭の草刈り・手入れ 「ハーブを楽しもう」講師・小林綾子さん
- 6月9日 座談会「らいてうの家開館に関わって」 お話・藤原美津子さん・松沢愛子さん
- 6月12日 第2回理事会（オンライン併用）

らいてうの会ホームページの

QRコードです。

